

## ノー・モア・ひとりぼっち

今日は待ちに待ったイースターです。子どもたちに聞きましょうか。〇〇ちゃん、イースターって何の日でしょう？そう、イエス様が復活された日ですね。今からおおよそ2000年前の今日、十字架で死なれたイエス様は蘇られました。それははたしてどんな出来事だったのでしょうか？イエス様の十字架の前から遡ってお話ししていきましょう。

イエス様が十字架につけられる前の夜の事です。イエス様はお弟子さんたちと一緒にエルサレムの町外れ、ゲッセマネという所にやって来られました。さっきからイエス様の静かな低い声が聞こえています。イエス様がお祈りをしていっしょなので。「神様、もうすぐ自分は十字架につけられます。でも、できることならこの苦しい仕事をしないで済むようにしてください。しかし、私が願うことではなく、神様のお考えの通りのことが行われますように。」

少し離れた所に、三人の人が眠っていました。ペテロとヤコブとヨハネです。夜も遅いので、寝てしまったのでしょう。お祈りが終わったイエス様は、三人の方においでになりました。「あなたたちは眠っているのですか。悪魔があなたたちを滅ぼしに来ても負けないように、目を覚まして祈っていなさい。」ペテロたちは目を開けて祈り始めましたが、また眠ってしまいました。

そこにどやどやと大勢の人がやって来ました。イスカリオテのユダが言います。「わたしが挨拶をする人がイエスだ。うまく捕まえろよ！」「よし、わかった。」「先生、ここにおいででしたか。」「おい、あの男を捕まえろ！」「よしきた。」イエス様は乱暴な人たちに捕まえられてしまいました。この時イエス様のお弟子さんたちは皆、自分の命が惜しくてイエス様を見捨てて逃げてしまいました。

縄で縛られたイエス様は大祭司の所に連れて行かれます。さらに人々はイエス様を

死刑にしようと思ってローマの総督ピラトの所に連れて行きました。ピラトは色々調べてから、「この人は何も悪いことをしていないから、死刑にすることはできない」と言いました。すると、遠くでイエス様を見ていた人たちが叫びました。「イエスを十字架につけろ！」「十字架につけないと、総督の言うことを聞かないぞ！」ピラトは困りました。「えーい、もう知らない。こいつを十字架につけちゃえ！」

とうとうイエス様は十字架につけられることになりました。「おい、こいつに上等な着物を着せ、冠をかぶせて王様のようにしてみよう。」「目隠しをして、叩いた者を当てさせるのもおもしろいぞ！」兵隊たちはイエス様をからかいながら、いばらの冠をかぶせました。イエス様の頭からは血が流れていました。

イエス様は重い重い十字架を背負わされて、ゴルゴタの丘へ向かって歩いていきました。昨日から眠っていないイエス様は、何度も転んで十字架につぶされてしまいそうです。「おい、お前、この男の代わりに十字架を背負って行け！」兵士たちは通りかかった人に、イエス様の十字架を無理に背負わせました。

丘の上に十字架が三本立てられました。二人の悪人とイエス様の十字架です。イエス様のお声が聞こえます。「父よ、この人たちをお赦してください。自分たちのしていることがどんなに悪いことか、わからずにいるのですから。」しばらくすると、昼間なのに辺りが暗くなりました。イエス様はお亡くなりになりました。

イエス様を大好きだった女性のお弟子さんたちやアリマタヤのヨセフさんたちは、お亡くなりになったイエス様を十字架から降ろしました。皆、黙ったまま白い布でイエス様を包み、お墓にお納めして、石で蓋をしました。そして、エルサレムの町に帰って行きました。

三日目の朝早く、マリアたちはイエス様に良いにおいの油を塗ってあげようとして、お墓に来ました。「あら、ふたが開いてる！」「わたしたちより先に、どなたかいらっ

しゃったのかしら？」マリアたちはお墓に近寄って行きました。お墓の中に入ると、なんと白く輝く衣をつけた天使が座っていました。天使は言います。「イエス様は蘇られました。もうここにはおいでになりません。『イエス様はガリラヤに行かれました。あなたたちはそこでまたイエス様に会えますよ』とペトロさんたちに知らせてあげなさい」と。マリアたちはびっくりです。墓を出て逃げ去りました。

実はマルコによる福音書では、ここでふつりとお話が終わってしまいます。皆の聖書にはその続きも書かれていますが、それは後になって付け加えられたもので、もともとマルコによる福音書のお話はここで終わっていたんですね。他の福音書では、このイエス様のお墓が空っぽだったというお話の後、実際に復活したイエス様が色々な人にそのお姿を現されるお話が記されているんですが、マルコによる福音書ではこの空の墓のお話でもうふつりとお話が終わってしまうんです。それはなぜでしょうか。

マルコによる福音書を書いた人は、私たち読み手に問いかけているんですね。この後、逃げ去った女性たちはどうしたと思いますか？また、お弟子さんたちはガリラヤでイエス様に会えたと思いますか？それなら、そのお弟子さんたちはどうしたでしょう？イエス様の復活の事実に触れて、復活の主に出会った人たちのその後はどうなったと思いますか？そして、他でもないあなたもこのイースターにイエス様の復活の事実を知らされていますけれども、この後、どういう風に生きていきますか？

こんな風に、マルコによる福音書を書いた人はあえてお話を未完成のままにして、私たちの答えを待っています。この続きは、あなたの命、あなたの人生で描いていきなさいと。今からおよそ2000年前の出来事で終わらず、それを受けて私たちがどのように生きていくか、私たちの人生まで巻き込んで続いていくお話。それがイースターの出来事、イエス様復活の出来事なんです。

イースターの日に現れた天使は言いました。「復活のイエス様にガリラヤでお目にかかれますよ」と。ガリラヤというのは、お弟子さんたちにとってイエス様と共に生

きた日常の場です。そこで新しい復活の生命を与えられたイエス様に会うことができます。その場所で私たちは、生涯を通して神様の愛に生きた、また神の国、正義と平和の実現のために生きたイエス様と再び出会って行くんだよ。

マルコによる福音書を書いた人は、一生懸命イエス様の生涯を証してきた後、最後の場面で私たちにこのようなメッセージを語っています。あなたたちも日常の場で、ガリラヤに生きたイエス様のその生涯を思い起こして、その生き方に真実を見出し、繋がって生きていきなさいと呼びかけています。

イエス様の生き方、それは決して人を独りぼっちにしない生き方です。辛さや悲しみを抱えた人、苦しみを抱えた人を独りぼっちにしない生き方です。イエス様を見捨てて逃げて、途方に暮れていたお弟子さんたちもイエス様は独りぼっちにはしませんでした。「大丈夫。あなたを決して独りにしないよ。」イエス様の生涯に目を向けると、イエス様のその御声が聞こえてくるような思いがいたします。

私たちもまた人生の中で辛さや苦しみ、悲しみを抱えて孤独を感じる時があります。けれども、そんな時こそイエス様は私たちのそばにいて、「独りじゃないよ。私もそばにいるし、教会の仲間もいるよ」と声をかけて、私たちを背負って支えてくださるのです。そしてイエス様はいつも、「あなたも人を独りぼっちにしないように、互いに愛し合って生きてね」と、愛し合い、支え合って生きる仲間の輪に私たちを招いてくれています。そのイエス様の愛のもと、私たち、これからも皆で生きていく仲間の輪をどこまでも広げていきましょう。そして、この世界から独りぼっちをなくしていきたいと願います。

祈りましょう。 ——以下、祈祷——